みぬま通信 第85号
2021年01月

見沼たんぼくらぶのイベント

豊作だった見沼ふれあい農園２号地の秋野菜栽培

１１月１４日(土)見沼たんぼふれあい農園２号地秋野菜栽培の収穫日で、参加者４５名による主力栽培の蕪(小・赤)、大根(青首・紅芯・聖護院・紅)及び春菊の収穫を行った。

昨年と比較すると、形が良くて重く太い収穫物を手にして収穫の喜びを味わう。前記の蕪・大根・春菊のほか、小松菜、サニーレタス、大根(二十日)、法蓮草の併せて１１種栽培したが、法蓮草は例外だが、それ以外は全て期待以上の成果であった。第１回の９月５日の種蒔きに始まり、３回に亘る除草・間引き、短収穫種の収穫作業が行われる。コロナ禍の影響もあり少人数の参加であるが、出席率の高い参加者が多く、参加者のうち４回以上の参加の延べ人数は２/３を占めた。

一方、機械化による畝間除草の省力化をはかり、また、マルチ農法採用による畝をビニールシートで覆うことでの地温上昇による促成・雑草の防除効果があった。これらは(公財)サイサン環境保全基金からの助成が大きく寄与した。収穫品・活用可能な間引き品は参加した家族・個人単位に均等割りにして持ち帰り頂いた。参加された方々に御苦労様でしたと述べさせて頂きます。(若野忠男　記)

京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培

好天に恵まれた１１月１８日（水）収穫祭が緑区見沼の畑で、見沼たんぼくらぶ会員１７名と福祉団体等３４名の総勢５１名で行われました。今回の栽培は７月と１０月の連日の雨による日照不足で芋の成長が懸念されましたが、新農地で土壌が良かったことや高畝にマルチを張ったことなどの効果で高品質な芋が大量に収穫できました。特に里芋は大きく、食味も良くて過去一番の出来でした。初めて栽培した海老芋は想像していたエビの形をした子芋はほとんどできませんでしたが、親芋もしっかり育ち上手くいきました。

作業は８時から会員全員で、立派に育った京芋・海老芋・里芋・八つ頭の芋掘りに取り組み、丁寧に収穫した後、マルチを剥がして１１時過ぎに終了となりました。参加者は抱えきれないほどの収穫物を自転車や車に積み込んで帰路につきました。生姜の収穫は谷中生姜が９月３日の除草作業後に、大身生姜が１０月２６日の試し掘り時に行いました。福祉団体等の（社福）久美愛園てとて、(社福）ななくさ大谷作業所、（社福）さくら草ディセンターかりん、（ＮＰＯ）ともに生きる会さんご、(社福）久喜けいわ、(社福）こぐま保育園の皆さんは里芋と八つ頭を鎌とマンノーとスコップを上手に使いながら収穫を楽しんでいました。

（三上雅央　記）

見沼たんぼ地域の会員のイベント

楽しかったサツマイモ掘り　（　こぐま保育園　）

今年は、サツマイモ畑が少し遠くなったことが功を奏して、ミニ遠足のようにサツマイモ掘りを体験することができました。

１０月２６日はとても良い天気で気持ちのいい日でした。子どもたちは朝８時半に保育園に集合し、９時に保育園を出発。１時間弱歩いて到着しました。行く道中にコスモスを見つけたり、サギを見つけながらで、楽しく歩きました。

今年は「紅東」と「紅はるか」の２種類の芋を掘らせてもらいました。土がふかふかで柔らかくて、素手とシャベルで掘って　掘って　掘りまくり、出てきた芋の大きさに子どもたちは思わず歓声をあげていました。

掘った後は　積み上げられていた芋のツルをリースのように巻いてみたり、バッタを追いかけまわして遊び、最後には近くの空き地に給食を運んでもらい、青空の下、お腹いっぱい食べました。そして元気に歩いて帰ることができました。

１１月にはこの掘ったサツマイモを洗って濡れた新聞紙とアルミホイルで包み、畑で焼きいもにして食べました。総勢９０人ほどで食べられました。みんな「甘くて美味しいね～」「ほんとだ！紅はるかはねっとりしていて甘い！」「紅東はホクホクしていて甘いね」そんな言葉を交わしながら　素敵な時間を過ごせました。

見沼たんぼくらぶの皆さん本当にありがとうございました。

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

NPO法人自然観察さいたまフレンド早起きバードウオッチング 11月1日

皆さんこんにちは。ひんやりとした空気と清々しい朝陽、双眼鏡を持つ手も冷たく感じる秋本番を迎えた観察会となりました。出発前に石橋から芝川上流を眺

めていると、どこからかヒバリの地鳴きが聞こえてきました。さらには川面をオオバンとバンが仲良く並んで泳いでいる珍しい様子も見られました。芝川を覗くと、ボラの群れが遡上していました。時折ボラたちの銀鱗を翻す姿が見られます。

芝川対岸の野球場側に並んだ黄色や褐色に染まった欅の梢からは、ホオジロやモズの鳴き声が聞こえてきます。芝川両岸を覆っていたアレチウリやオオブタクサも今は葉を落とし、茶色く変色した蔓や茎の絡み合った草むらで3羽のアオジが元気よく飛び交っていました。「ジョウビタキ！」との小峯氏の声が響きました。残念ながら鳴き声に気付きませんでしたが、先月まで出会えなかった冬鳥たちが次々と姿や声を表してくれているのが大変嬉しいものです。

大和田緑地の斜面林からは姿は見えぬものの、カケス、ウグイスの地鳴きが聞こえました。右手の調節池ではヒドリガモの群れが見られます。雄のシンボルである

頭部のクリーム色のラインがはっきりとしないエクリプス状態で，雌雄の羽毛の違いがわかり難いものでした。

境橋手前のいつもの柳の枝に、久々にゴイサギを2羽見つけたのですが、残念ながら顔を胸に埋めて佇んでいました。また、近くの電線の上でカワウがまわりを眺めながら羽繕いしている様子にも出会いました。

道すがら、目にした木の実について小峯氏や佐々木氏より話を伺いました。イネ刈りが終わった谷地保全地区内では、ガマズミの実が真っ赤に熟していました。この実は野鳥が好物なだけではなく、甘酸っぱい果実ジュースとして青森県の特産品となっているとのことでした。他にも斜面林で見かけた大きく熟したカラスウリや、第3公園のアキニレの実に関する話は興味深いものでした。木の実を知って、そこに集う野鳥に思いを巡らす。植物の知識も野鳥を楽しむために不可欠であることを痛感しました。実際に公園で、アキニレの実を数羽のカワラヒワやメジロ達が食べているところ見て、なるほど！と納得した次第。

池には、コガモ、キンクロハジロ、ハシビロガモ等冬の水鳥たちが戻ってきていました。これからいよいよ冬本番を迎えます。葉を落とした樹木の枝で、もっと様々な冬鳥達の姿・鳴き声を楽しめることでしょう。

風邪やコロナに負けず、来月も元気に観察会でお会いしましょう！！

観察された鳥34種（※2種は解散後の帰り道にて観察）アオジ、ウグイス、オオバン、カイツブリ、カケス、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、キジバト、キセキレイ、キンクロハジロ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、シジュウカラ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、ダイサギ、ハクセキレイ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、バン、ヒドリガモ、ヒバリ、ヒヨドリ、ホオジロ、ムクドリ、メジロ、モズ、（※アオサギ、ハヤブサ）

コース 芝川 石橋（大宮体育館下）…大和田緑地公園斜面林…芝川 境橋…大宮第三公園　（梅津英幹 記）

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説　　八木一郎

土呂神明社の北西に鎮座する「阿弥陀堂」

この場所は明治の初めまで地域住民の菩提寺だった浄職院のあったところで、見沼代用水（西縁）の完成によって江戸と舟運で結ばれたことで集落が生まれ寺子屋もできた。

１７２９年（享保１４年）没した俊長和尚の墓は和尚の教えを受けた筆子たちが建立した筆子塚と呼ばれるもので、大宮地区の最古と言われる。その後歴代の和尚により寺子屋が続き、明治７年本郷学校のちの土呂学校となった。

蔵敷稲荷神社

大宮区役所の南隣、赤い鳥居の奥にある小さな御社。寿能城の蔵屋敷にあった稲荷社を移したものといわれ、別名中寺（宋金寺）のお稲荷様として親しまれている。拝殿内には江戸後期から住民によって奉納された様々な絵馬が並び、初午には多くの参詣者が訪れる。

塩地蔵と子育て地蔵

中山道の大宮市民会館近く（子育て地蔵尊の標識が目印）、吉敷町の目立たない路地に建つ地蔵堂で、隣り合わせに塩地蔵と子育て地蔵が並んで建つ。

江戸時代病になった父親を持つ姉妹の夢枕に地蔵があらわれ、塩絶ちをするようお告げがあり、塩絶ちをすると父は全快したという。地蔵様にはお礼の塩などお供えが絶えない。

塩地蔵はイボにも効能があるともされている。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

加田屋の田園風景

作者　　桶川　辰也

見沼田んぼの東側台地を流れる見沼代用水東縁は、灌漑の務めを終えて加田屋川に合流します。田植えのころ、川に架かる山下橋から北の七里方向を画きました。のどかな田園風景と川岸を覆う葦の逞しさをどのように現わしたらよいか、迷いながら自然の素晴らしさに感動した夏の一日でした。

見沼たんぼ探訪記

見沼自然公園の銅像と静寂

緑区南部領辻には、平成６年（１９９４）に開設した約１０．９ha の見沼自然公園がある。園内に入ると広大な芝生広場があり、広場には生誕３５０年を記念した井澤弥惣兵衛為永の銅像が、その功績を後世に伝えようと平成１７年に建立された。

徳川吉宗が紀州藩主から第８代将軍になった享保元年（１７１０）の頃は幕府の財政状況は大層厳しかった。吉宗はこの状態を立て直すために、紀州藩で土木事業に携わり優れた才能を約３０年間にわたって発揮していた為永を江戸に呼び寄せた。新田を開発して財政難を乗り越えようと考えたのである。

為永は調査を終えると、水源を利根川に求めて享保１２年（１７２２）に工事を開始、翌年春には約６０ｋｍの「見沼代用水路」を完成させた。１２００ha のこれまでの見沼溜井は、こうして「溜井（ため池）から水田」に代わったのである。

今こうして目の前に立っている銅像の為永は、いうなれば、見沼田んぼの生みの親とも言えよう。

公園内には、自然観察園、野鳥の森、休耕田等々もあり、市民の憩いの場になっている。なかでも修景池に近寄ると、赤や白の睡蓮の花が池面のあちこちに静かに咲いており、静まり返った池の姿を一層静寂な世界に変えている。

（召田紀雄　記）

寿能城址への訪れ

市営大宮球場を左側に見ながら「大和田公園通り」を西進し、見沼代用水西縁の流れを「寿能上橋」にて渡る。橋を渡り終えたら直ぐに左に折れ、その先の右側奥に歩を進めると、その先は寿能公園となる。

園内の一角に進むと碑が建っており、ここが「寿能（じゅのう）城址」である。永禄３年（１５６０）の頃に岩槻城の支城として造られ、初代の城主は岩槻城主・太田資正の四男である潮田資忠であった。

資忠の兄には岩槻城主となった太田氏資がおり、氏資が北条方に属すと、資忠も兄に従い北条氏の傘下に入る。豊臣秀吉による小田原城への戦いは１５９０年に始まり、資忠は小田原に籠城し城内外郭の守備を任されていたが、その後討ち死となる。豊臣方は寿能城や岩槻城にも攻撃、両城とも同年５月２０日に落城。

こうして北条氏は滅び去り、徳川家康が江戸に入ると寿能城は廃城となり、周辺の開発に伴って城郭も消滅する運命をたどって行くのだった。

今では公園のあちこちで子供たちが「キャー、キャー・・・」と大きな声をあげ夢中になって遊んでいる。子供たちが喜び遊ぶ平和で健康な姿を目に入れると、当時は、この場所が本丸や物見櫓（ものみやぐら）等を有する城であったということが信じられないほどである。

（召田紀雄　記）

見沼たんぼの仲間たちNo. 56

上山口新田の米づくり・水田を応援する会

――高層ビル群と水田の「素敵なコントラスト景観」をいつまでも残すために――

都市・農業共存景観（ルー・アーバン景観）

見沼区上山口新田地区は芝川の東側で、山口橋から新大道橋までの間、約３０ha ほどの地区は水田が比較的良好にまとまって残っている地域です。水田の西側には、芝川沿いに首都高さいたま新都心線がなだらかなカーブを描いて走っており、その向こう側には、さいたま新都心の高層ビル群のシルエットを望むことができます。

水田という古来からの農業景観の向こう側に、現代的な高層ビル群が見えるという「素敵なコントラスト」から、さいたま市のホームページや広報誌などに、その景観が掲載されており、田園都市・さいたま市を代表する「都市・農業共存景観（ルー・アーバン景観）」の一つとなっています。

耕作放棄地の広がりの危機

２０１７年６月、西野輝久氏から、地区内に耕作放棄地が広がりつつあるとの報告が提起されました。その報告では、「耕作放棄地が３か所、田植え後の管理が不十分なところが１か所あるほか、植木畑等の畑も２３か所に広がりつつあり、まさに、上山口新田地区でのコントラスト景観に危機が迫ってきている」との報告でした。

市民活動グループとしての対応開始

これを受けて、見沼ファーム２１の島田由美子代表にご相談をし、上山口新田地区の米づくり・水田保全の応援活動を進めていくこととなりました。

その後、当地区で農業委員会の農地利用最適化委員をされている小山吉男さん宅を訪問し、耕作放棄地の復元のご相談をしました。その結果、耕作放棄地はご親戚の小山一喜さんが、2 年前他界したお父さんから相続した農地ということで、東京在住の小山一喜さんにご連絡をとっていただくこととなりました。

地権者さんと農地利用最適化委員さんとの合意

検討・協議の結果

１．機械耕作と農地管理は小山吉男さんにお願いをする。

２．市民団体と地権者・小山一喜さんは、機械で耕作しきれない水田の周囲等のお手伝い作業をする。

３．機械耕作や苗の購入等に必要な経費については、市民団体が提供する。

４．地権者・小山一喜さんからは、市民団体の応援活動に対して「応援金の 1/2 の額に対応する応援感謝米」を提供していただくということとしなりました。

「応援する会」を結成

上記の合意を踏まえ、田植えも迫ってきていることから、急遽「上山口新田の米づくり・水田を応援する会」を、島田代表・西野副代表・北原事務局長で結成し、参加、ご協力いただける方を募ることとなりました。

ご協力・参加の内容は、①1 口 5,000 円で 10kg の玄米を購入いただくこと、②田植えなど農作業の補助作業への参加です。その結果、2018 年は、31 名と１団体のご協力・参加をいただくことができました。2019 年、2020 年もほぼ同様なご協力をいただきました。

今後も持続的な応援が必要です

米づくり・水田の危機は、経営的な危機の反映です。現在の米の価格だと、大規模な経営以外は採算が成り立たなくなってきています。高齢化で耕作者が不在になったり、高額な耕作機械の買い替えが必要になったりすると、水田をやめてしまう農家がでてきてしまいます。

このような地域での水田耕作の廃業にブレーキをかけるには、市場価格より少々高い価格でも身近な地域のお米を購入する地域住民や市民の応援が不可欠です。

（事務局長　北原典夫）

見沼たんぼを支える農家さん

「こばやし農園」小林弘治さん

「こばやし農園」の小林弘治さんは、農薬も肥料も使わずに、見沼区片柳、緑区三浦、新宿などにある 8 か所、計 1.4ha の畑で 8 人のパートさんと四季折々の野菜を栽培しています。大学卒業後、都内の広告会社に 20 数年勤めていましたが、いつかは独立したいと思っていたそうです。そして、やるなら他の人がやっていないことをやりたい、と選んだのが無農薬・自然栽培の農業でした。

（小林弘治さん）

初めは移住のような形で場所を探していたそうですが、そういえば子供のころ、家の裏にあった田んぼでよく遊んでいたことをふと思い出します。小林さんは、都内に勤める会社員の家庭で育ちましたが、家は浦和区大原。浦和西高の裏のまさに見沼田んぼが子供のころの遊び場だったそうです。そこで、見沼で無農薬・自然栽培を実践していた農家さんや県農林公社の就農予備校で研修を受けながら、2014 年に農家としてのスタートを切ります。

その後、畑や販売先を徐々に増やしていくなかで、お客さんの「おいしいね」という言葉とともに、よく聞かれたのが「自然栽培でこんなに立派な野菜ができるの？」という言葉でした。それで思い出したのが、地元の農家さんの間で「マコモ層」とか「スクモ層」と呼ばれている黒い泥炭土の層のこと。湿地等に生育する植物が未分解の状態で堆積したもので、有機物を多量に含んでいるため肥料分が豊富です。小林さんは実際に、さいたま農林振興センターの協力のもと、こばやし農園の緑区宮後の畑の一画を掘ってみました。すると表層の茶褐色の層の下から、黒色の層が現れ、さらに掘ると約 1m で水が出ました。

元々湿地だった見沼は土地が低いため、台風や大雨で畑が水浸しになり、野菜や植木が被害

（色とりどりのカブや大根）

を受けることが長い間農家の悩みでした。でも、湿地であったがために地中に天然の肥料と水が存在するということ、小林さんはこれを見沼の特徴、と前向きに捉えます。そして、鎌倉、という地域ブランドを使った「鎌倉野菜」があるように、見沼、という特徴あるこの地域で育てた野菜を「見沼野菜」と名付けて、広く知ってもらいたい、との思いで、2020 年 6 月に見沼野菜のロゴマークの商標登録を果たしました。

マコモ層と野菜の生育の関係は、まだ体験に基づく仮説の段階なので、これから科学的に分析する必要があり、また地下の水の分布と地表温度の関係なども研究者と協力して調べていきたい、と語る小林さん。ここから、知らなかった見沼の新しい姿が見えてくるかもしれません。

取材：島田由美子、高橋いずみ
文責：高橋いずみ）

こばやし農園の野菜は以下で販売しています。

・こばやし農園ビニールハウス（片柳の万年寺裏手）：火・木・金・土・日 10：00～12：00（「見沼野菜」のノボリが目印。天候や作業の都合により不定期で休みの場合あり）

・オンラインショップ：https://kobayashinou.xsrv.jp/shop
https://kobayashino2.thebase.in

・魔女のコッペンパ：見沼区南中丸 316 Tel:048-685-3013
https://ja-jp.facebook.com/majyocoppe

・げんきの市場：越谷市赤山町 1-96-3 Tel:048-967-2888

その他詳しくは、090-2470-2091（小林）まで。

見沼たんぼくらぶのイベント案内

見沼塾「見沼たんぼの野鳥観察」

２月　７日（日）１０時・見沼自然公園集合
講師：小峯　昇（ＮＰＯ法人自然観察指導員埼玉代表理事）

◆ 当公園の修景池には、さいたま市で最も多種多数の冬鳥が飛来します。
申込み：当日、集合地の休憩ロビー（管理棟の向かい側）で９時３０分から受付。
参加費：無料
交通：大宮駅東口からバス⑦「締切橋」下車、向かい側（乗車時間約３０分）

『見沼の自然と史跡』

（以下の観察会でしたがコロナウイルスの広がりにより中止となりました）
３月２１日（日）９時・さいたま新都心駅改札口の向かい側集合
講師：自然観察指導員

◆ コース：ケヤキ広場…見沼代用水西縁…上山口新田（春の七草）…圓蔵院（花木）…中山神社（境内林）

会員の主宰するイベント情報

見沼スケッチ会第１４回水彩画展

《さいたま市教育委員会後援》
２月９日（火）～１４日（日）９時～１７時
（ただし、最終日は１５時まで）
会場：さいたま市立大宮図書館展示室

◆ 当会は旧坂東家住宅見沼くらしっく館を拠点に毎月第１火曜日に見沼の風景を主なモチーフにして初心者も経験者一緒になって水彩画を勉強している同好会です。
主宰　八木　一郎　☎(048)822-5504
代表　落合　秀行　☎(048)684-3123

早起きバードウォッチング

ＮＰＯ法人自然観察さいたまフレンド主催１月１０日（日）・２月７日（日）・３月１４日（日）毎回７時～８時３０分・芝川石橋（さいたま市立大宮体育館下）集合
コース：芝川 石橋…大和田緑地公園…芝川 境橋…大宮第三公園

申込み：当日、集合地で７時まで
参加費：無料

見沼たんぼくらぶ会員募集中！

◇ 埼玉県土地水政策課の支援のもとに、見沼たんぼ緑地で様々の体験事業展開
農園づくり／自然観察ハイキング／清掃ボランティア／見沼塾等々

◇ 季刊『みぬま通信』（総カラー）郵送
◇ 年会費　１口１，０００円
個人（同居の家族単位）：１口以上
企業・団体：３口以上

*

みぬま通信第 85 号

発行日　令和３年１月１日
発行所　見沼たんぼくらぶ
〒３３７－００５３　さいたま市見沼区大和田町１－２１２４－３　小野方
TEL・FAX　（０４８）６８３－１７６４
E-mail　ono1927@grace.ocn.ne.jp
ＵＲＬ　http://minumatanbo.web.fc2.com/

© 2021 Minuma Tuusin